

15歳の柱本翔夢伊が初優勝！

3期生の柱本翔夢伊（15）が、今シーズン参戦しているSuper-FJ鈴鹿・岡山シリーズ第4戦／第5戦において、自身初優勝を達成しました。

金曜日のフリー走行から好調な走りを見せた柱本は、各セッションで上位タイムを記録。迎えた土曜日の公式予選では、ライバルのスリップストリームを巧みに活用し、2番手タイムをマークしました。当初はチームメイトの小野原がトップタイムを記録していましたが、4輪脱輪によりタイムが抹消されたため、柱本が繰り上がりで自身初となるポールポジションを獲得しました。

今大会は決勝レースが2ヒート制で行われ、レース1は予選順位、レース2はレース1の結果をもとに上位6台によるリバースグリッドで争われます。ポールポジションからスタートしたレース1では、スタートを決めてホールショットを奪取。しかし、オープニングラップのスプーンカーブで新型クラスのマシンに先行を許し、総合2番手へ後退します。それでも旧型クラスのトップを維持したままレースを進めました。2周目のバックストレートでは同クラスのライバルに逆転を許しクラス2番手となりましたが、その直後にセーフティカーが導入されます。3周後のリスタートでは絶妙な加速を決め、前を行くライバルを抜き返して再びクラストップへ浮上しました。その後は同クラスのライバルと激しいトップ争いを展開。何度も順位が入れ替わる白熱した攻防が繰り広げられました。残り2周、トップ走行中の最終シケインで新型クラスのマシンがインへ飛び込んできたことで接触寸前の場面となりました。柱本は接触を避けるためシケインをショートカットし、そのままトップでチェッカーフラッグを受けます。しかし、レース後にショートカットに対するペナルティが科され、結果は2位。初優勝は目前で惜しくも幻となりました。それでもレースを通じて見せた速さは十分に証明され、午後のレース2へ向けて大きな自信を得る内容となりました。

レース2はレース1の結果によるリバースグリッドが採用され、柱本は3番グリッドからスタートしました。スタートではポジションを維持して1コーナーへ進入し、前方を走る同クラスの2台を追います。しかし、最終シケインで同クラスのライバルに先行を許し4番手へ後退。それでも2周目にはすぐに抜き返し、3番手を奪い返しました。その直後に再びセーフティカーが導入され、3周後にレースは再開。柱本は前車のスリップストリームを巧みに利用し、1コーナーで2番手へ浮上すると、続くスプーンカーブ進入で鮮やかなオーバーテイクを決め、ついにトップへ立ちました。ここからはファステストラップを記録する圧巻のペースで後続との差を広げ、スリップストリーム圏外までリードを拡大。終盤は安定した走りでもトップを守り切り、15歳で嬉しいSuper-FJ初優勝を達成しました。さらに、新型クラスを含めた総合優勝も果たす見事なレースとなりました。

この結果、ポイントランキングは2位へ浮上し、シリーズチャンピオン獲得へ向けて大きく前進しました。また、チームメイトの小野原も後方から追いついて3位表彰台を獲得。LAPS勢がワン・スリーフィニッシュを飾る最高の週末となりました。



PHOTO : Atsushi BESSHO (Motorsports Forum掲載)



PHOTO : Yoshinori ONISHI (Motorsports Forum掲載)



PHOTO : Atsushi BESSHO (Motorsports Forum掲載)

